

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

小中学生の部

奥の細道
むすびの地
大垣

令和七年六月度 入賞句一覧

投句数 千百六十五句

特選

高木 佐知子 選

夜のまど虫とり名人ヤモリかな

大垣市

山田 ことは（小三）

夜になつて窓越しの明かりに集まる虫たち。そして、それらを食べに来るヤモリ。いつでも見られる光景ではないので、それを見つけた時、作者の目がヤモリに釘付けになり、細かな動きを見逃さないぞという真剣さが伝わってきます。ねらいを定め、ゆつくり近づき、一瞬の素早さで食べる。この見事な動きに対して「虫とり名人」と名付けたのです。きつと、作者も虫取り名人なのでしょう。楽しい一句です。俳句ではヤモリを「守宮」とも書くのですよ。

むらさきのくちびるたのし桑ジュース

大垣市

市川 椋一（小六）

食べると甘みを感じる桑の実をジュースにして飲んだのでしょうか。おばあちゃんやお母さんと一緒に作ったのでしょうか。上五にあるように、唇に桑ジュースの紫色が残っているとも読むことができます。そして、中七の「くちびるたのし」が、美味しかったということを物語っています。読み手がいろいろと想像して読むことができることも俳句の楽しさです。工夫ある一句です。

つゆのひにてるてるぼうずぶらさげる

大垣市

おかむら ちより（小二）

てるてる坊主を作るのは、次の日に楽しいことがあるからでしょう。梅雨の時期は、じめじめした日が続く、いつになったら晴れるのか分からないので、「明日は絶対に晴れてほしい」という強い気持ちで伝わってきます。季語の「つゆの日」が良いですね。さらに下五に注目すると、「作った」ではなく「ぶらさげる」とあるので、てるてる坊主をお願いしている作者の姿が想像できます。願いはきつと通じたことでしょうか。気持ちが良く表れた一句です。

秀逸

あおむしは生まれてすぐに葉をかじる

大垣市

田村 いおり（小三）

ざりがにのにげあしはやいようすいろ

大垣市

足立 修哉（小二）

さんねん生しゆくだい多いはるだよな

大垣市

早野 あいと（小三）

はるかぜにおされせいこうさかあがり

大垣市

新道 もえ（小四）

さようなら合図のチャイム夏の夕

大垣市

中村 朱里（小四）

いちごがりハートのいちごみつけたよ

大垣市

森 ふうか（小三）

熱帯夜将棋で勝つて九連勝

大垣市

陸田 峻生（小四）

なつのそらあせびつしよりでチアおどる

大垣市

木村 心音（小四）

耳すませ大垣まつり笛の音

大垣市

増田 愛璃（小六）

なつのよるほしをのこらずかぞえきる

大垣市

西村 かける（小二）

入選

ひまわりがわらいかけるよ太ように
 びわのみをからすとぼくでとりあいだ
 まよなかにかさかさうごくかぶとむし
 かたつむり地面に光る足あとだ
 アイスバーあたりがでたからもう一本
 林の空雷ドカンとひきつる背
 外にでておもたい雲がつゆをよぶ
 花火がドン空にひろがるまんげきよう
 夏の川二人のあみではさみうち
 つばめの子大きな口でおやをよぶ
 バトミントン姉と遊んだ春休み
 青空でとんぼのリレー始まった
 今年もねリフォームしたよつばめさん
 おおがきのまつりのやまはきらびやか
 あめあがりかえるのこえがひびきあう
 一匹でさみしげ緋鯉ゆれる川
 グラウンド走り続けて夏休み
 ともだちをふやしているとわかばかぜ
 朝昼の全校放送夏の空
 ばしよの葉まきつけながら育ちゆく

大垣市

勝野 日向実（小三）

大垣市

富田 精佑（小三）

大垣市

西本 航大（小三）

大垣市

金井 大翔（小三）

大垣市

高木 萩矢（小三）

大垣市

柴田 峻佑（小五）

大垣市

香村 ゆ月（小五）

大垣市

古田 まき（小五）

大垣市

松岡 慎之助（小五）

大垣市

すず木 さあや（小二）

大垣市

相良 成惺心（小五）

大垣市

大野 琴音（小五）

大垣市

大たに れいか（小二）

大垣市

富田 陸人（小二）

大垣市

中村 神之助（小二）

大垣市

高木 詩（小六）

大垣市

吉田 奈恩（小五）

大垣市

増田 愛菜（小一）

大垣市

細田 結月（小五）

大垣市

曽我 雪月（小六）

選者吟

あぢさゐに導かれゆく小道かな

佐知子



小中学生の部